PET- CT 検査説明書

PET-CT検査について
本検査ではブドウ糖に似た性質の薬(放射性医薬品)を使用します。がん細胞等の活動が活発な細胞が、正常細胞に比べブドウ糖の取り込みが多くなる性質を利用します。薬の取り込み量の違いを画像化することで、がん等の病気やその状態を調べる検査です。
※検査は約3時間かかります。

検査を受けるにあたり、以下の注意事項をご確認ください。

■検査前、5時間以上の絶食が必要です。
軽い食事やインスリン注射は、検査開始時刻の5時間前までに済ませてください。
■検査当日、「水(ペットボトル500ml)」と「お薬手帳」をご持参ください。

■検査前や検査中は、安静にしてください。

■介助の必要な方は、検査の間、家族の付き添いが必要です。
車イスの方や物忘れのある方も付き添いが必要です。
■検査当日、都合が悪くなった場合、早急にご連絡をお願いします。
広島西医療センター　地域医療連携室　0827-57-7183　内線(2140)

■体内に金属がある場合、種類によっては検査を行うことができません。
※ペースメーカーは検査可能ですが、除細動機能付きの機器は検査を行えません。
あらかじめお申し出ください。
■持続グルコース測定器やインスリンポンプを使用している場合、検査時に取り外して頂きます。

【検査当日持参するもの】
・診察券
・マイナンバーカード（健康保険証でも可）
・紹介状
・PET-CT検査説明書（本紙）
・PET-CT検査同意書
・PET-CT検査問診書
・診療予約券
・紹介施設からの検査画像Disc（ある方）
・水(500ml)
・お薬手帳
・オムツを使用されている方は替えのオムツ

【検査前の準備】
・検査日の2～3日前から激しい運動は控えてください。
→運動することで筋肉へのブドウ糖の取り込みが増えます。検査で使用する薬も同様に多く取り込まれ、その結果、診断が困難となる場合があります。
・検査前日の飲酒は、控えてください。
・検査前日および当日の下剤の使用は控えてください。
・検査当日、徒歩や自転車で来院される方は、早めにお越しください。
→検査前に安静にする必要があります。
・検査当日、糖分や乳製品を含むもの(ジュース、牛乳、アメ、ガム等)、糖分を含む点滴は控えてください。
・検査前5時間以上の絶食が必要です。
・糖尿病治療薬の服用やインスリン注射は、検査開始時刻の5時間前までに済ませてください。
・その他のお薬については内服いただいて結構ですが、シロップ、ゼリーや水薬は控えてください（糖分を多く含むため）。

【検査当日の流れ(検査終了まで約3時間)】

1. 受付
   検査予約時刻の10分前までに、玄関ホールの外来受付①番窓口にて受付を済ませてください。
2. 問診・採血
   問診の内容を確認します。
   注射して採血を行い血糖値を測定します。値が正常であれば薬を注入します。
3. 安静待機
   待機回復室にて、撮影開始まで安静に過ごします(約1時間)。待ち時間で、持参した水を飲みます。
   携帯電話の操作や読書は、検査画像に影響があるので止めてください。
   オムツを使用している方は、撮影の直前に持参された新しいものに交換します。
4. 撮影
   同じ姿勢で約20～40分かかります。時間をあけて再度撮影する場合があります。
5. 待機
   撮影後、待機回復室に戻り、案内があるまで待ちます(約20～40分)。
6. 会計
   会計窓口(3番)で支払いを済ませて終了です。

【検査後】

・検査で薬(放射性医薬品)を使用したため、体から微量の放射線が発生しています。
時間の経過とともに放射線はなくなりますが、検査終了後2時間はできるだけ人込みを避けてください。特に、妊娠中の方や10歳未満のお子さまとの接触はできるだけ避けてください。
また、授乳中の方は検査終了後24時間の授乳を控えてください。

【検査結果】

・当院での結果説明はありません。結果については、約1週間で紹介元の医療機関に郵送します。連休の場合、結果郵送までに時間がかかることがあります。

【検査費用】

・保険適用の場合　：　負担3割の方は約3万円 / 負担2割の方は約2万円
・人間ドック / 保険適用外の場合　：　約10万円
保険適用の可否については、医師にご確認ください。

【お薬の副作用】

・検査で使用する薬は、国内において重篤な副作用の報告はなく安全性が高いと考えられています。副作用が発生した場合でも、速やかに対応させていただきます。

【キャンセルについて】

・キャンセルの連絡は、検査前日(休日を除く)午後3時までに、地域医療連携室までお願いします。<u>連絡なく来院されなかった場合、検査費用を負担していただきます。</u>
広島西医療センター　地域医療連携室　0827-57-7183　内線(2140)

【ご了承いただきたいこと】

・体重や身長により、使用する薬の最適な量が異なります。そのため、薬からの被ばくや検査画像の画質を調整するため、検査開始時刻が遅くなる場合があります。
・検査で使用する薬は、検査当日に検査時刻に合わせて岡山県から配送されます。
道路状況または天候により検査開始が遅れたり、検査ができなくなる場合があります。
・検査機器のトラブルにより、検査ができなくなる場合があります。
・検査予約時間より遅れて来院されると、検査できない場合があります。
・絶食ができていない場合や、検査時の血糖値が高すぎる場合は、検査中止となる場合があります。
・副作用や偶発的な症状に対して、診察・処置・投薬が必要になった場合、保険診療で対応させていただきます。あらかじめご了承下さい。

検査についての質問や都合の悪くなられた場合は下記までご連絡をお願いします。

診療用放射線による影響について
（診療用放射線の安全利用に関する説明書）

放射線を用いた検査を受けるにあたって

検査で使用される放射線の量は少なく、健康への影響はほとんどありません。
安心して検査を受けていただくために放射線の特性について説明します。

1.　この検査により想定される被ばく線量と影響について

放射線による影響には、発がんと身体的な影響（皮膚紅斑、脱毛、不妊など）があります。

【発がん】

疫学調査の結果、1度の被ばく線量が100ミリシーベルトを超えると発がんリスクが高まるが、100ミリシーベルト以下では明確なリスク上昇を確認できないとされています。
人体には放射線による影響に対する修復機能があるため、複数回のX線検査を受けた場合でも、放射線の影響が全て蓄積するわけではありません。

【身体的な影響】

ある線量（しきい値）を越えると身体的な影響が生じる場合がありますが、この検査により受ける被ばく線量は、しきい値よりもはるかに少ないため身体的な影響が現れることはありません。

※しきい値の例

■皮膚紅斑　：　2,000ミリグレイ
■脱毛　：　3,000ミリグレイ
■不妊　：　2,500～3,500ミリグレイ
ミリシーベルト　：　放射線によってどれだけ人体に影響をおよぼすかを数値化した単位
ミリグレイ　：　放射線のエネルギーが物質にどれだけ吸収されたかを表す単位

1グレイのX線が全身に均等に吸収された場合の被ばく線量は、1シーベルトになります。
身体の一部分のみ吸収された場合、比較的高い放射線量でも体への影響は少なくなります。
日本の自然放射線（宇宙、大地、食物等から）：年間2.1ミリシーベルト

本検査で想定される被ばく線量は以下の通りです。

検査薬による被ばく線量	CTによる被ばく線量	合計被ばく線量
2ミリシーベルト	20ミリシーベルト	22ミリシーベルト

被ばく線量は理論値であり、実際の検査時間や患者様の体格により変動します。

2.　この検査の必要性について

病気の発見・治療、経過観察には放射線を用いた検査が必要となります。医師は検査による被ばくのリスクと、病気の発見や治療によるベネフィットを比較し、放射線検査が必要であると判断した場合のみ検査を行います。
不安がありましたら医師にお尋ねください。

3.　当院で実施している医療被ばくの低減に関する取り組みについて

関連学会等のガイドラインに準じ、適切な放射線量を用いて検査を行っています。
検査によって受けた放射線量を記録・管理しています。
関連する全職員に対し、定期的に医療放射線に関する研修を行っています。

放射線を用いた検査の必要性、影響について納得された上で別紙同意書にご署名ください。